

■ 実習

実習「持ち寄りホームパーティ」

(情報カード型の問題解決実習)

中 村 和 彦

(南山大学人文学部心理人間学科)

ねらいの例

- ・グループで課題に取り組む際に、課題の内容(“what”：コンテンツ)だけではなく、どのように課題を進めるか(“how”：プロセス)にも目を向ける。
- ・グループで課題を解決する際に、お互いの中で起こること(たとえば、自分やメンバーの参加の仕方、コミュニケーションのありよう、情報の共有の仕方、課題の進め方、意思決定の仕方、グループ全体の雰囲気、リーダーシップなど)に気づき、その体験から学ぶ。

(学習者の状況に合わせてねらいを設定する必要あり)

グループサイズ

1グループ 5名～7名。グループ数はいくつでも可能。

所要時間

100～130分

準備物

1. 手順書(資料1) 各自に1枚 (ねらいとスケジュールが記載された日程表でも可)
2. 課題シート(資料2) 各自に1枚

3. ふりかえり用紙（資料3） 各自に1枚
4. 情報カード（資料4） 各グループに1セット
5. 模造紙、下敷き、マジック（マーカー）のセット（各グループに1つずつ）

会場の設定

移動可能な机と椅子を使用することが望ましい。グルーピング後は、グループのメンバーが机をはさんでお互いに向かい合える状態になれるよう（グループ形式）に設定する。

手順

1. ねらいと手順の説明 手順書または日程表（資料1）を配布し、ねらいと実習の手順を説明する。
2. グルーピング 何らかの方法でグループ分けを行い、グループの場所をセッティングするよう伝える。お互いに初めて会う場合は自己紹介の時間を設ける。その後、模造紙・下敷き・マジックのセットを各グループに配布する。
3. 課題の導入 課題シート（資料2）を配布し、課題の内容を説明する。
4. 情報カードの配布 情報カード（資料4）1セットを各グループに配布する。情報カードを裏向きにして、メンバーに1枚ずつ順に配布し、各メンバーにはほぼ同じ枚数を配布するように伝える。

<手順1～4までで約20分>

5. 課題の実施 <30～40分>
時間設定については、これまでの経験上、課題に取り組む時間として、カード型の問題解決実習にある程度慣れている大学生は30分間、数回の体験学習を体験したことがある社会人では40分間が適切と思われる。
6. 結果発表・正解発表 各グループからの結果を発表してもらった後に、正解（資料5）を伝える。 <5～10分>
7. ふりかえり用紙（資料3）記入 <15分>
8. グループでのわかちあい <25～35分>
9. 全体でのわかちあい <5～10分>

ファシリテーションのポイント

実習「持ち寄りホームパーティ」の課題は、情報カードの枚数が多いため、カード型の問題解決実習の中では中程度の難易度である。そのため、ラボラトリー方式の体験学習を初めて体験する学習者にとっては若干難しいと思われる。こ

の実習を用いる際は、カード型の問題解決実習（たとえば、実習「匠の里」など）をすでに体験したことがある学習者に対して、または、すでに体験学習の流れを知るための導入のプログラム（実習「名画鑑賞」など）を体験した後の実習として、などが効果的であろう。なお、高校生に対しても実施可能であると思われるが、小中学生にとっては、課題の難易度が高いことや情報カードの枚数が多いことから、適していない。

カード型の問題解決実習は、明確な正解があること、課題達成のおもしろさがあることから、コンテンツに集中しやすい。そのため、学習者の状況やこれまでのプログラムに応じて、「コンテンツとプロセス」、「体験学習とは？（体験学習のサイクル）」、「グループプロセスとは？」などの小講義を行い、学びの意味づけを行うことも必要である。

今回添付されているふりかえり用紙は、すでにラボラトリー方式の体験学習を体験したことがある大学生向けで、手順書に書いてあるねらいと対応させて作成したものである。ふりかえり用紙は、設定されたねらいに対応させながら、学習者の状況に合わせて作成する必要がある（どのようなふりかえり用紙の項目を用いるかを考えること自体が重要なファシリテーションのポイントであろう）。そのため、今回添付されているふりかえり用紙は実習「持ち寄りホームパーティ」用のものというよりは、1つのサンプルとして捉えていただきたい。

資料1

実習「持ち寄りホームパーティ」

ねらい：グループで課題を解決する際に、お互いの中で起こること（たとえば、自分やメンバーの参加の仕方、コミュニケーションのありよう、情報の共有の仕方、課題の進め方、意思決定の仕方、グループ全体の雰囲気、リーダーシップなど）に気づき、その体験から学ぶ。

手 順：

1. ねらいと手順の説明
2. グループピング
3. 課題の説明
4. 課題の実施
5. 結果発表・正解発表
6. ふりかえり用紙記入
7. グループでのわかちあい
8. 全体でのわかちあい

出典：中村和彦(2016) 実習「持ち寄りホームパーティ」
南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第15号より

資料2

実習「持ち寄りホームパーティ」

グループへの指示書

女性6人でホームパーティをすることになりました。それぞれが食べ物などを持ち寄って1人の家に集まり、ワイワイと楽しもうとしているところです。彼女たちは時々このような形で気軽な持ち寄りホームパーティをしています。

6人は今、長方形のテーブルに座っています。それぞれが持ってきたものを、自分の目の前に置いたところです。このホームパーティについて、あなたのグループが取り組む課題は、情報カードの中に書かれています。また、課題を解決するための情報は、すべて情報カードの中に書かれています。グループが取り組む課題を、30分以内に解いてください。

なお、グループのそれぞれのメンバーに配布される情報カードの内容は、口頭で伝えてください。他のメンバーの情報カードを見たり、自分の情報カードの内容を他のメンバーに見せたり、あるいは、情報カードを交換したりしないでください。また、情報カードの内容を、模造紙や他の紙に全部書き出すことはできません。模造紙には単語や図を書くことはできません。

完成した後、時間がある場合は、テーブルの上に置かれたものを絵で表してください。

出典:中村和彦(2016) 実習「持ち寄りホームパーティ」
南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第15号より

資料3

実習「持ち寄りホームパーティ」 ふりかえり用紙

1-a. このグループの中で、あなたは、どれくらい
自分の意見や考え、アイデアを言うことができましたか？
<どのような点で>

| | | | | | | |
|-------|---|---|---|-------|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ----- | | | | ----- | | |

全くできなかった 充分できた

1-b. このグループの中で、あなたは、どれくらい
他のメンバーの意見や考えを聴くことができましたか？
<どのような点で>

| | | | | | | |
|-------|---|---|---|-------|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ----- | | | | ----- | | |

全くできなかった 充分できた

2. 課題に取り組んでいる間のグループ全体の様子(=グループプロセス;たとえば、コミュニケーションの様子、意思決定のされ方、進め方や手順、リーダーシップや影響関係、ノームや決まりごと、全体の雰囲気やその変化、など)について、感じたことや気づいたことを記入してみてください。

3. グループのメンバー(あなたも含めて)の動きについて、印象に残っていることや感じたこと、グループで課題に取り組んでいる際に、グループ全体やあなたへ与えた影響、などを記入してみてください。
<誰の> <どのような言動が どのような影響を>

わたし :

_____ :

_____ :

_____ :

_____ :

_____ :

4. その他、今回の実習体験から気づいたこと、学んだことや、日常で活かしたいことは？

資料4

| | |
|---|---|
| <p>ホームパーティに参加する6人は、それぞれ異なる食べ物、飲み物、デザートを持ち寄りました。</p> | <p>このパーティが行われた家に住んでいる人以外の5人は、異なる方法でこの家に来ました。</p> |
| <p>ヨウコさんは自分の家で実施するため、動きやすいようにドアのすぐ前のイスに座りました。</p> | <p>ユミカさんは仕事で忙しいため、食べ物を作ることができず、来る途中でお寿司を買ってきました。</p> |
| <p>お寿司を買うのに思ったより時間がかからず、ヨウコさんの家に早くついたので、一番奥のイスに座りました。</p> | <p>お寿司を買った人は、車で運ぶことができたため、持ち運びは便利でした。</p> |
| <p>お寿司を持ってきた人から見て左隣には、ビーフシチューが置かれていました。</p> | <p>ビーフシチューを持ってきた人は、それに合うように、赤ワインを持ってきました。</p> |
| <p>赤ワインの目の前には、白ワインが置かれていて、二人で「気が合いますねー」と言っていました。</p> | <p>チキンカレーを作った人は、本当はビールが合うと思ったのですが、この家の人が「ビールはうちで準備するね」と言っていたので、他のアルコール入りの飲み物を持ってきました。</p> |
| <p>ミホさんはあっさりしたものを食べたいと思いました。ふと見ると、すぐ右側にサラダがありました。</p> | <p>自転車^{あんじんとうふ}で来た人は、自転車の振動で杏仁豆腐がこぼれるかどうか心配していました。</p> |
| <p>デザートとしてフルーツを持ってきた人は3人で、それぞれ、いちご、スイカ、マンゴを持ってきました。</p> | <p>加工されたデザートを持ってきた人は3人います。それぞれ、アイスクリーム、ショートケーキ、杏仁豆腐^{あんじんとうふ}を持ってきました。</p> |
| <p>パスタは中華料理の目の前に置かれています。</p> | <p>フルーツはテーブルの半分より奥側に置かれています。</p> |
| <p>ドアから入って、手前に1人、奥に1人、ドアから見て左手側に2人、右手側に2人が座っています。</p> | <p>6人は仲良しで、時々持ち寄りのホームパーティをしています。</p> |

資料4

| | |
|--|--|
| <p>えびチリを持ってきた人は、デザートも中華料理で合わせようと思いました。</p> | <p>食べ物とデザートを中華料理にした人は、飲み物も中華風のウーロン茶にしようかと思いましたが、そこまではこだわり過ぎだと思って、違うものになりました。</p> |
| <p>シャンパンを持ってきた人は、車で来たので、自分はそれを飲むことができません。</p> | <p>得意のチキンカレーを作ってきた人は、バスで来ましたが、バスの中にカレーのにおいが充満して、他の乗客からジロジロ見られました。</p> |
| <p>えびチリを持ってきた人は、ウーロン茶が目の前に置かれていたため、「ラッキー」と思いました。</p> | <p>ショートケーキを持ってきた人は、駅前のケーキ屋さんでそれを買って箱に入れてもらって、電車で持って来ました。</p> |
| <p>マンゴは隣の家に住むチナコさんの旦那さんが、沖縄出張の際に買って来たものです。チナコさんは歩いてそれらを持って来ました。</p> | <p>バスで来るアユコさんが、スイカを持って来るのは、さすがに無理です。</p> |
| <p>フルーツを持ってきた3人はアルコール飲料を持ってきていました。アルコールが飲めないユミカさんがノンアルコールを探したところ、ウーロン茶とオレンジジュースがありました。</p> | <p>ショートケーキの箱の中には、いちごのショートケーキが6個入っていました。</p> |
| <p>いちごショートケーキは、いちご系でかぶってしまいましたが、隣同士に置かれなかったことが幸いでした。</p> | <p>ヨウコさんは、冷蔵庫で冷やせるということで、食べ物としてサラダを出しました。</p> |
| <p>ミホさんの向かいにはエリさんが座りました。</p> | <p>グループの課題は、ドアの目の前に座った人から順に、時計回りで、誰が座っているかを明らかにすることです。</p> |
| <p>グループの課題は、ミホさんはどのように来たかを明らかにすることです。</p> | <p>グループの課題は、ドアの手前に座っている人はデザートとして何を出したかを明らかにすることです。</p> |
| <p>今は、自分が持ち寄ったものを、自分の目の前に並べてある状態です。</p> | <p>ホームパーティが行われる部屋には、6人が座れる長方形のテーブルがあります。</p> |

資料5

<正解>

席順 手前: ヨウコさん → ミホさん → アユコさん → ユミカさん → チナコさん → エリさん

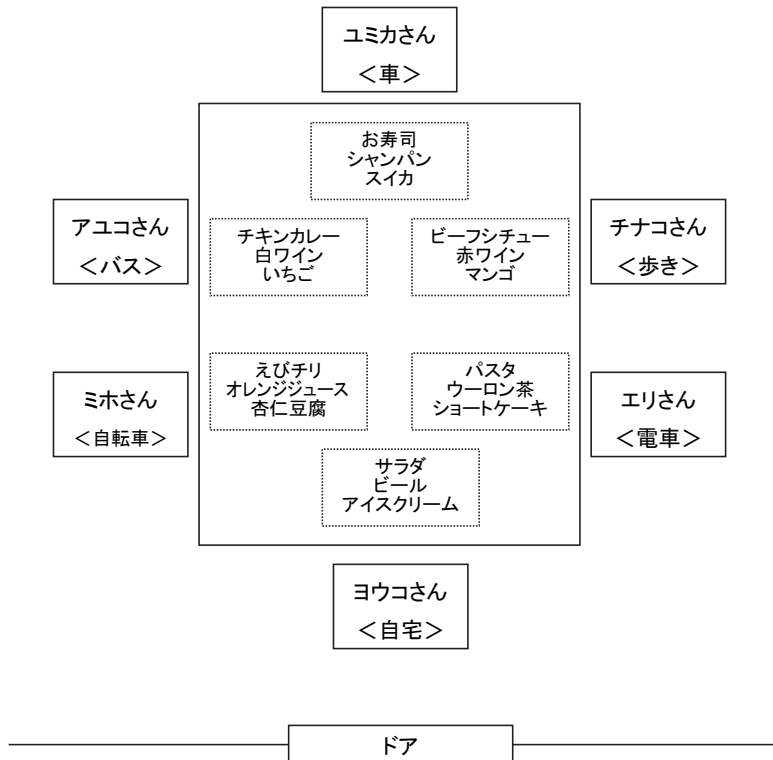
ミホさん何で来たか?: 自転車で来た

手前に座っている人のデザート?: アイスクリーム

<6×5の表>

| 座席 | 手前 | 左手前 | 左奥 | 奥 | 右奥 | 右手前 |
|-----------|---------|----------|--------|-------|--------------|---------|
| 名前 | ヨウコさん | ミホさん | アユコさん | ユミカさん | チナコさん | エリさん |
| 食べ物 | サラダ | えびチリ | チキンカレー | お寿司 | ビーフシチュー | パスタ |
| 飲み物 | ビール | オレンジジュース | 白ワイン | シャンパン | 赤ワイン | ウーロン茶 |
| デザート | アイスクリーム | 杏仁豆腐 | いちご | スイカ | マンゴ | ショートケーキ |
| どうやって来たか? | 自宅 | 自転車 | バス | 車 | 歩いて (隣の家) | 電車 |

<レイアウト図>



実習使用規定

ラボラトリー方式の体験学習に関するツールを公開することで、ラボラトリー方式の体験学習が広く普及することを願って、第7号(2008)より「実習」を掲載しております。ここに掲載されている実習は、当センター研究員とその仲間によって開発され、これまでの教育実践で用いられてきたものです。使用の際には以下の留意事項をお守りください。

なお、ラボラトリー方式の体験学習を実施する際には、まずはご自身がラボラトリー方式の体験学習を体験されることをお勧めします。当センターではラボラトリー方式の体験学習を用いた公開講座を開催しております（詳しくは当センターの Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/> をご参照ください）。体験学習のファシリテーションを学んだ上でご使用ください。

実習を使用する際の留意事項

1. 著作権は著者に属します。実習を販売することや、営利目的の発行物などに転載することは禁止します。なお、教育目的での無料の発行物などに転載を希望される場合は、当センター事務局にお問い合わせください。
2. ラボラトリー方式の体験学習として教育・研修などに使用される場合には、各実習の課題シート（実習の指示書）に出典を明記してください。使用の際に当センターや著者に許可を得る必要はありません。また、使用料も発生しません。

【出典の記入例】

出典：大塚弥生（2008）「グループ エントランス」

南山大学人間関係研究センター 人間関係研究, 第 7 号より

3. 課題シート（実習の指示書）をそのまま使用するのではなく、プログラムの実施状況に合わせて適宜修正・変更した上で使用する場合は、「参考」として出典を明記してください。
4. ラボラトリー方式の体験学習で大切にされている教育観（学習者中心の教育、非操作の教育、学習者が自らの人間的成長に取り組む教育）に反する使用は禁止します。たとえば、営利目的で学習者を操作する自己啓発セミナーなどでの使用は一切禁じます。